

常に持ち歩いているホワイトボードに、私に伝えたいことを書いてくる。仕方がないことだが、私は少し寂しかった。常に彼女の目や表情を見て、会話をしたかった。彼女は手話ができるため、自分が手話を覚えれば、彼女を見ながら会話できるのではないかと思い、手話を習おうと思った。

二つ目は、ドラマや映画で手話のシーンになると、俳優の手話や表情ではなく、字幕を追ってしまうからだ。

私はドラマや映画が好きで、特に聴覚障害がテーマのドラマや映画があると、欠かさず見るようにしている。俳優がせっかく手話を覚え、豊かな表情もつけながら演じているのに、意味がわからないので、どうしても字幕を見てしまう。手話を覚えることができれば、俳優の手元や表情をリアルタイムで楽しめると思ったのだ。

ある日、「少しずつ手話を覚えられたら良い」と思い、参加し始めた手話サークルで、「電話リレーサービス」を知った。

耳が聞こえない、声を発することが難しいと、電話を利用することが不可能だ。以前見たドラマでは、聴覚障害を抱える登場人物が電話をかけてみたが、何かが聞こえることはもちろんなかった。電話でビデオ通話をするシーンもあったが、通話は手話を使える人のみに限られてしまう。耳が聞こえない人や、声を発することが難しい人は、即時に、誰とでも電話でつながることはできないのだろうか。

そんなことはない。令和三年度に制度化された「電話リレーサービス」では、通訳オペレーターが「手話」や「文字」と「音声」で、聴覚や発話に困難のある人と、耳が聞こえる人との通話をつなげてくれるのだ。ホテルやレストランの予約の時、SNSだと細かい問合せができないため、「電話リレーサービス」が便利だそう。また119番や110番などの緊急通報もできるようになり、安心感が増したそう。このサービスが普及すれば、誰でも電話を利用することができるのだ。

サービスが始まって一年二ヶ月が経った段階で、電話リレーサービスの認知度は、二十一%だったそう。しかし、この数値は高いとは言えない。私も手話サークルに参加していなければ、知らなかった者の一人だ。必要としている人にとって便利なサービスだが、多くの人が知る機会が少なすぎるのだ。

東川町でも、タブレット端末で手話の通訳を行うサービスをしている。役場の方に聞いてみると、このサービスに関わる職員は一人しかいなくて、全職員が認知しているわけではないという。また常に利用できるわけではなく、使うためには予約が必要らしい。利用する側にも負担が大きいと感じた。

どうしたら、あらゆる人が快適に生活できる社会を創ることができるのだろうか。多くの人が不便と感じていないことを改善することは、難しいのだろうか。

旭川市では、二〇一六年に、手話言語条例が定められた。聴覚や発話に困難のある人たちにとって、安心できる町づくりを目指したものだ。全ての人々が快適に、安心して暮らせるようにするためには、国や市、町などの行政の取り組みは、欠かせないのだ。

自分たちにとって声や言葉が必要であるように、手話を必要としている人がいる。これは、当たり前のことだ。立場を変えることで、その当たり前に気づき、不便な部

分が見えてくるのではないだろうか。

今回は、聴覚・発話に障害を抱えている人たちの立場で考えてみたが、世の中には様々な不便を抱えている人がいる。私たちが気づいていないだけで、身の回りには悩んでいる人たちが大勢いる。

これからは、自分の住みやすい社会だけを求めるのではなく、誰もが住みやすい社会を目指さないといけない。そのためにも、私は、色々なことに興味をもち、視野を広げ、耳を傾け、誰もが住みやすい社会創りに関わりたい人になりたい。



「ボランティアをして考えたこと」

東川高等学校 2年
菅井美愛

私がボランティア部に入ったきっかけは、「誰かを支える活動をしたい」と思ったことです。バスケットボール部との兼部ですが、バスケ部は平日の練習、ボランティア部は休日の活動が多いので、両立できています。

同学年の部員が少なかったので、入部したばかりのときは不安でした。先輩方が分からないところは親切に教えてくれたので、楽しく取り組むことができました。

印象に残っている活動は、6月の東川養護学校の生徒さんとの交流学习です。私はボランティア部に入る前には地域の人たちと交流がなかったので、牛乳パックのリサイクルの紙すき作業で、生徒さんにどのように話しかけたらよいか分かりませんでした。養護学校の先生が話題を出して雰囲気のを和ませてくださいました。そこからは勇気を出して生徒さんに作業のやり方を聞くことができました。

ここから、活動先の人のようすを見て、「何を考えているか、どんな思いでいるのか」をくみ取りながら、お話ししながら、活動することが大事だと、学びました。

私たちは毎年夏に、レモネードスタンドの運営を通じて、小児がん患者の方への支援活動をしています。ポッカサッポロさんが無償で提供してくださるレモン果汁でレモネードを作って売り、経費を引いた売り上げ金の全額を、支援団体に寄付しています。

去年は、道の駅で、今年は永楽寺さんのコンサートのイベントで、出店させていただきました。今年はレモネードのレシピを見直すために、何度も試作しました。すっきりした甘さになって、かつ材料費を抑えられる砂糖とはちみつの組み合わせを、工夫しました。

当日は、たくさんの方がレモネードを買ってくださいました。「おいしかったよ」と声をかけてくださる方、小児がん患者への支援活動だと知って、お金を寄付してくださる方がたくさんいました。

ボランティア活動では、毎年、初めて取り組むこともたくさんあり、迷ったり悩んだりすることもあります。

東川養護学校さん、子ども食堂の永楽寺さん、社会福祉協議会の方々、地域の方から「ぜひ来てください」とお声がけをいただいています。少しずつですが、私たちは、積極的に前向きに挑戦できるようになりました。「誰かに笑顔が届けられたらいいな」と思って活動していましたが、活動を応援してくださる地域の方々のおかげで、

私たちはやりがいをもって取り組んでいます。

ボランティア部の活動を通じて、難病と戦う方・ハンディキャップを持つ方・貧困に苦しむ方がいて、手助けを必要としている人たちが、たくさんいることを知りました。

一方で、「本来は、政治と行政による保障と支援をすべきであって、ボランティアの善意に甘えるべきではない」という意見も聞きました。

政策や制度による社会保障が、充分に手厚くなって、ボランティア活動の必要がなくなる社会が、理想なのかもしれません。

それでも、私たちは、地域の困っている人に寄り添い、お手伝いすることを続けたいと思います。

今、健康で、学ぶこと・働くことができ、社会生活を無事に送れていても、病気や不慮の事故、自然災害などで、生活と人生が一変してしまうことは、誰にでもあり得ることです。

先が見えない社会情勢の中で、「自己責任」・「自助努力」という言葉が、強調されるようになりました。

「困難があっても自分の努力と責任で、乗り越えなければならない」、「困ったときに、誰にも相談できない」、私は、そのような社会になってはいけな思考ええます。

支援を必要としている人には、さまざまな理由があると思いますが、生活が苦しいことに加え、もっともっと苦しいことは、「孤独や孤立を感じながら生きること」ではないでしょうか。

自力で乗り越えにくい、「格差の影」にいる人、福祉制度が届かずに苦しんでいる人に、「あなたのことを気にかけています」、「私たちに何かできることはありますか」と伝えて、寄り添う活動をしていきたいと、考えています。

今年の東川高校のボランティア部は、1年生が12人入部しました。十月には、全学年の部員11人が参加し、旭川の駅前広場で「あしなが学生募金」の街頭募金活動に取り組みました。

これからも、地域のみなさまに教えていただきながら、これまでいただいたご親切と応援を、支援を必要としている方に送れるように、努力してまいります。



私が福祉の道を志した理由

旭川福祉専門学校 介護福祉科1年
都 築 優 花

本日は、東川町福祉大会に福祉作文の発表者としての機会を与えて頂きありがとうございます。私は、東川町で生まれ、育ちました。自然の豊かさや、地域に住んでいる人達の温かさや優しさに幼い頃から支えられながらここまで頑張ってくることができました。現在は、こころの豊かな福祉従事者を目指すために旭川福祉専門学校に通っています。

私が福祉の道を志すようになったきっかけは、高校時の選択授業でした。それまで福祉や介護といった事は真剣に考えたこともなく、この授業が将来の役に立てば良いなという気持ちで授業に臨んでいました。

その授業には、私が現在通っている旭川福祉専門学校の先生方が毎週来て下さり、様々な知識や技術を伝えてくれました。車いすの操作方法や注意点、医療の知識、介護保険制度の知識や、視覚障害がある方への支援方法として点字や白杖を使って実際に歩いてみる体験など、何の知識もなかった私にとっては毎週の授業が良い刺激となりました。

それらの経験は、私が高校を卒業した後の進路を考える時の大きなきっかけともなりました。

授業で学んだことをいかし、人と関わる仕事に就きたい。沢山の人を支えられるようになりたい。

そのような気持ちを持てたことが福祉や介護という職業を選んだきっかけです。

ここから先は、旭川福祉専門学校での学びとこれからの私の決意について話したいと思います。

本校の介護福祉科は、留学生と共に福祉を学ぶことができるとても魅力のある学科だと感じています。

私のクラスには東南アジアから来た留学生が日本人と一緒に介護を学んでいます。日本人以外にも、インドネシアや中国、タイ、モンゴル、台湾、マレーシア、ベトナム、フィリピン、スリランカなど合計49名が在籍しています。

福祉の知識だけではなく、他の国の人達の考え方の違いや国の特色など互いに刺激し合い学ぶことができることや、施設での実習は、私の考える福祉観に大きな影響を与えてくれました。

8月下旬から9月にかけて2週間ではありますが「出逢い」というテーマの下初めての介護福祉実習がありました。

入学してはじめての実習だったこともあり、不安と緊張で一杯でした。職員さんからも「今は経験がないから不安かもしれないけど、2週間の新しい気付きや発見、疑問を解決していくことが自信になるから何も心配しなくても大丈夫だよ」とアドバイスを頂くことができ、気持ちが少しリラックスし、のびのびと実習に向かえた事を思い出します。

この不安だった気持ちに対して安心する言葉を今度は私が実習で不安な人達にアドバイスできるように力をつけていきたいと思いました。

また、利用者さんに話しかけることも中々できなかった私に利用者さん達は優しく声を掛けて下さり、学校で学んだようなコミュニケーションほど上手にはいきませんでした。貴重な経験をさせて頂きました。

あっという間の2週間でしたが、これから介護福祉士を目指す私に貴重な体験と沢山の応援を頂きました。

沢山ある職業の中で私は介護福祉士になることを決意しました。これから出逢う利用者さん一人ひとりに寄り添い安心感を持って頂けるような介護福祉士を目指して頑張っていきたいと思います。



美瑛・東神楽・東川 3町合同交流会

ひがしかわ
ボランティアセンターだより
第60号

11月14日(火)に美瑛町、東神楽町、東川町の
3町で合同研修会を実施致しました。

ボランティア活動について



ポッチャ交流会



ボランティアとして活躍されている皆様が「そら
いろ」に集まり、各町のボランティア活動や今後の
取り組みについて話し合いました。東神楽町で実施
している有償ボランティアについてもお話を頂くこ
とができました。

参加人数の都合上、活躍されているボランティア
の方全員にお声掛けできなかったのが残念です…。

後半は、ポッチャ交流会とお食事会を実施して
います。「ポッチャは初めて」という方もいま
しが、的になる白いボールに自分のチームのボ
ールを近づけるだけの簡単なルールで、皆さん
とても楽しまれていました。

参加者の方から「来年も集まりたい」という声
をたくさん頂きました。また皆さんとお会い
できる日を楽しみにしています。

令和5年度 みまもりサポーター養成講座

今年も高齢者等のお宅を
訪問して、お声掛けをして頂
く「みまもりサポーター」に
なるための講座を実施して
います。「見聞を広めたい」
「福祉について知りたい」
理由は何でも構いません。
興味のある方はぜひご参加
ください。



福祉用具体験中

みまもりサポーター養成講座の日程

プログラム④

内容 「認知症について知ろう!!」
～認知症サポーター養成講座～
とき 令和6年1月23日(火) 10:00～11:30
場所 社会福祉協議会(共生プラザそらいろ)
東川町東町2丁目12番10号

参加ご希望の方は _____
社会福祉協議会(電話:82-7505)に
お申し込みください。

プログラム⑤

内容 「高齢者における不調のサインと
元気に過ごすポイント!!」
講師 森山メモリアル病院
訪問リハビリテーション事業所東出張所
所長 齊藤 浩平氏
とき 令和6年1月25日(木) 10:00～11:30
場所 社会福祉協議会(共生プラザそらいろ)
東川町東町2丁目12番10号

東川小学校3年生と福祉の勉強をしました！

12月8日、東川小学校3年生の総合的な学習の時間にお年寄りについてのお話をしました。



子どもたちはとても積極的に参加してくれて、てつこおばあちゃんも大喜びでした！



紙おむつサービス事業

在宅での介護を必要とし、要介護2以上で常時紙おむつを必要とする方に1回5,000円分の紙おむつ券を年2回支給しています。R5年10月より、今年度2回目の支給受付が始まりました。ご希望の方は当社協へお申し込み下さい。

東川町診療所で診察を受けた時の医療費分助成事業

(薬剤費は対象外)

後期高齢者医療保険1割または2割負担の方で、まだ申請書を提出されていない方はご提出下さい。なお、一度申請書を提出すれば、その後の手続きは不要です。

— 困った時に誰もが「助けて」と言える町に — 第32回

「シャガールの会」

昨年、9月29日は中秋の名月。前日Bさんの誘いでお茶会を開く事になった。留学生の会話カフェを始めて7年、今ではBさん含め10数名のサポーターが活動している。その留学生との交流が縁で台湾からお菓子が届いたとのこと。折しも中秋の名月に因んだお菓子と。その大切なお菓子を他の女性サポーターとおしゃべりしながら味わうというのが、会の始まりだった。その日は新しく出来た「そらいろ」の見学の日でもあった。帰路、旧社協に立寄り早速お茶の用意を。長年、会話カフェで利用したデイルームの窓を開けるとコオロギの鳴き声が一気に流れこんで来た。別名、草ヒバリとも言われるその鳴き声が静かな社協内に美しく響く。その時の音色は今も忘れられない。

さて、そのおしゃべり会は12月にも開かれた。場所は「そらいろ」で。Bさんが広島を訪れた時のみじまんじゅうを皆で食べましょうと。集まった中での最高齢は86歳のK女史、人の一生を一枚のキャンバスに表現するとしたら、K女史は86色の豊かな色彩の持ち主となる。年を重ねるといことは人生の彩りが豊かになる事と私は受けとめている。そのおしゃべり会が新たに命名された。いわゆるおしゃべりする女子会なので「シャガールの会」となった。ちなみにシャガールと言えば仏の画家を連想される方も多いだろう。彼は愛の画家とか、華麗な色づかひの画家と言われている。互いを思いやる優しさと、おしゃべりに暮らそうとする私達の理想とするところだ。

ともあれ、「シャガールの会」はおしゃべりを通して相手や自分を承認し合う場です。次にお誘いを受けるのは、もしかして貴女かも知れません。その時は是非「そらいろ」でお会いしましょう。お待ちしております。

赤い羽根共同募金運動 & 歳末たすけあい共同募金運動



旭川福祉専門学校学生自治会様



東川ライオンズクラブ様



東川町赤十字奉仕団様



東川第一小学校様

そしてリングブル寄贈にたくさんのご協力ありがとうございました!!

元社協事務所玄関前の自動販売機が新しくなりました! 飲み物を飲んで、赤い羽根共同募金運動にご協力をお願いします。もちろん、そらいろ内の自動販売機でも募金できます。よろしくお願ひします☆



はじめての試み「そらいろぼきん」大勢の子どもたちが協力してくれて、3,870円集まりました! 赤い羽根共同募金に募金させていただきます。

開催します ことしも ちょこっと カレンダー リサイクル市

【日時】2024 1月15日(月)~26日(金)
10:00~15:00

【場所】東川町社会福祉協議会
共生プラザそらいろ交流ルーム
住所: 東川町東町2丁目12番10号

ただいま、不要な2024年カレンダーや手帳を集めています。ご提供いただける方は下記までお届けください。ご協力をよろしくお願いいたします。

▶ 期間 / 2023年12月4日~2024年1月12日
平日9:00~17:00まで
(土日祝日と12/30~1/8はお休みです)

お代は自分のまちをよくするしくみ「赤い羽根共同募金」に募金させていただきます

お問い合わせは…東川町社会福祉協議会 ☎82-7505